

## 事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 阿南市教育委員会
2. 研究主題 : 小規模校を存続させるための教育活動の高度化
3. 研究タイトル : 分散型小中一貫教育（チェーンスクール）を活用した活力ある学校教育の推進
4. 研究課題 : ①少人数のため個々の児童生徒に目が届きやすいというメリットを生かした小規模校における教育活動の活性化。  
 ②チェーンスクールを生かして小規模校のデメリットを削減する合同授業・合同行事等の在り方及び系統的な教育課程の編成。  
 ③経済的効率性を重視しながら小規模校の存続を図る学校間ネットワークの構築。  
 ④地域の教育力の一層の活用による小規模校の教育活動の活性化及び開かれた学校づくり。
5. 事業の実績

### (1) 調査研究のねらい

平成25年度から取り組んできたチェーンスクールの成果と課題を踏まえ、小規模化する学校の教育活動をより活性化させるために、これまで実施してきた合同学習や合同行事等について内容や計画性・系統性の点から検討を行うとともに、小中一貫した教育課程の編成をはじめ、地域の教育資源の活用や、個々の児童生徒の学力の向上等に関する調査研究を行い、地域の教育の一層の充実・活性化を図る。また、本調査研究の取組や成果は、小規模校が学校間ネットワークを構築して学校の活性化を図る方策の普及につながるるとともに、同様の課題を抱えている他の自治体のモデルとなるものとも考えている。

### (2) 調査研究の実施状況（平成28年度）

6月	第1回少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進会議
9月	調査研究推進全体会議 椿・椿泊町保小中合同運動会 地域人材の活用（稲刈り体験学習）
10月	地域人材の活用（月と惑星の観測会）、中学校教員出前授業、合同学習、小中学校児童生徒交流（N I E）、地域人材の活用（アサギマダラマーキング遠足）
11月	第2回少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進会議 小中一貫教育実践地区交流研修会（公開授業、取組報告、研究協議等） 先進地視察（島根県松江市） 校区学校保健委員会、合同学習、地域人材の活用（つばきっ子バザー）
12月	小規模校の活性化に係る研修会 椿支部人権教育研究大会、先進地視察（島根県松江市、山口県周南市、東京都千代田区）地域人材の活用（ふるさと学習）
2月	第3回少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進会議
3月	調査研究推進全体会議 リーフレット作成・配布

## 6. 事業の成果

### (1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

①少人数のため個々の児童生徒に目が届きやすいというメリットを生かした小規模校における教育活動の活性化。

授業や全校集会、朝の会等において個々の児童生徒が自分の意見や考えを発表する活動に工夫・改善を加え、思考力・判断力・表現力を備えた児童生徒を育成する。また、個々の児童生徒の学習課題及びその解決方法について時間をかけて検討し、個別指導を充実させ学力の向上を図る。

(成果目標1)

・小規模校のメリットを最大限に生かした取組を授業で実施している教員の割合：100%

(達成状況)

全ての教員が、児童生徒一人一人をしっかりと見取することで、各教科等の学習の中で苦手意識やつまづきを感じている児童生徒にいち早く対応することができている。そして、その子の特性に合った指導や支援を教職員間で共通理解を図り、継続して行うことにより、確かな学力が身に付くよう取組を進めている。

(成果目標2)

・小規模校のメリットを最大限に生かした指導方法の事例：収集

(達成状況)

県下5地区で開催された小中一貫教育に関わる実践地区交流会への職員の派遣や先進地視察(まつえ湖南学園小中一貫教育授業研究会・「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム東京・山口会場)を通して、小規模校のメリットを最大限に生かした指導法について研修を深めるとともに、各校で実施された研究授業をTV会議システムを活用して参観する機会を設けたり、ワークシートを共有するなどして、指導方法の研究や指導事例の収集を進めている。

(成果目標3)

・授業等で、個々の児童生徒が自分の意見や考えを発表する場に工夫・改善を加えた教員の割合：100%(教員に対するアンケート)

(達成状況)

○児童生徒が発表する機会を多く設けるようにしている教員の割合

A：よく行っている(57.1%) B：行っている(42.9%) C：あまり行っていない(0%)

○児童生徒が工夫した発表ができるような授業支援や授業改善を行っている教員の割合

A：よく行っている(10.0%) B：行っている(85.0%) C：あまり行っていない(5%)

学習時に発表ボードやICT機器を活用し、自分の考えをまとめる活動や朝会、学級活動等いろいろな場面で発表の機会を増やす取組を継続することで、児童生徒の思考力・判断力・表現力が身に付き、自信をもって発言する児童生徒が増えてきた。

(成果目標4)

・発表のとき、話の組立を工夫している児童生徒の割合：80%(教員に対するアンケート)

(達成状況)

○発表のとき、話し方を工夫している児童生徒の割合

A：よく行っている(4.8%) B：行っている(57.1%) C：あまり行っていない(38.1%)

前年のアンケート結果に比べA・B合わせた割合は約20%上昇しているが、目標の80%にはまだ届いていない。授業中だけでなく、朝会や全校集会の機会等を捉え、一人一人が前に出て発表する機会を多く設けるようにしたことで、相手に伝わるように工夫して発表できる児童生徒が増えてきた。しかし、約3割の児童生徒は、自分の考えや感想を述べるのが精一杯で、話の組み立てを考え、聞き手に分かりやすく伝える工夫をるところまで至っていない。

②学校間ネットワークを生かして学習集団の広がりや学習内容の深まり等を図ることにより、小規模校のデメリットを削減し、学校教育を活性化する教育内容の在り方。

すでに構築されている学校間ネットワークを生かした取組を進めるとともに、合同学習については学習内容や指導方法の充実について次のような点から検討を加え、教育内容の充実を図る。

- ・多くの人と協働して課題解決にあたり、何かを達成したりするという場面の工夫。
- ・多くの意見や考えを聞き、意見や考えの広がりや深まりを図る場面の工夫。
- ・多くの人とコミュニケーションを図る場面の工夫。

(成果目標1)

・合同学習・合同行事の実施により集団が大きくなることで、多様な学びや豊かな経験ができていていると感じている児童生徒の割合：80%

(達成状況)

○合同学習・合同行事の実施により集団が大きくなることで、多様な学びや豊かな経験ができていていると感じている児童生徒の割合：100%

地域人材の活用による合同行事や合同学習、中学校教員の乗り入れ授業、地域の行事への小中合同での積極的な参加など、チェーンスクールを生かした取組を次のとおり行った。

月	日	種別	概要	対象学年
7	13	合同学習	人権学習として、両小学校合同で「盲導犬ユーザーとの交流学習」を行った。	小全
7	19	合同行事	地域にあるYMCA阿南国際海洋センターで、外国人研修生と児童、生徒との国際交流を会を行った。	小全 中全
7	4	合同学習	人権学習として、両小学校合同で高齢者疑似体験などの「福祉体験学習」を行った。	小全
7	7	合同学習	地域にあるYMCA阿南国際海洋センターで両小学校合同で海洋学習を行った。	小全
9	15	合同行事	地域の方に協力いただき、両小学校合同で「稲刈り体験学習」を行った。	小全
9	19	合同行事	小中3校及び保育所と合同で、町内合同運動会を行った。	小全 中全
9	27	出前授業 (3回)	中学校教員の専門性を生かし、中学校の音楽担当教員が小学校で音楽出前授業を行った。	椿小全
10	21	合同行事	本県出身のプロ人形使い師を講師に迎え、地域の方と一緒に人形浄瑠璃体験教室を行った。	小全 中全
10	24	合同学習	中学生が小学校に出向き、昭和南海地震の新聞記事をもとに新聞の読み方や防災について出前授業を行った。	小全 中3
11	15	合同学習	中学生が小学校に出向き、小中学生が合同で英語学習を行った。	小5・6 中1
11	29	合同学習 (3コマ)	両小学校児童が中学校に集まり、中学校英語、音楽、体育の各教員が指導し3教科について合同学習を行った。	小5・6 中全
12	3	合同行事	椿支部人権教育研究大会において、各小中学校児童生徒が人権啓発に関わる人権劇等を発表した。	小全 中全
12	6	合同学習	地域人材を講師に招き、地域の歴史や文化について学ぶ「小中合同ふるさと学習」を行った。	小5・6 中1
1	17	合同行事	両小学校児童が合同でマラソン記録会を行った。	小全
1	17	合同学習	両小学校児童の4・5・6年生がJAXAの職員を講師に招き理科授業を行った。また、1・2・3年生の児童が図工の交流学習を行った。	小全
1	30	合同行事	小中学校児童生徒が参加して、中学校の立志式記念講演会を行った。	小5・6 中全

本年度は、「2つの小学校で、同じことを体験させてほしい。」という保護者の願いを受け、両小学校合同の学習や行事を多く設定した。卒業後に同じ中学校へ進学する児童なので、小学校時代に同じ体験をしたり、一緒に学習をすることが中学進学後の学習や生活に生きてくるのではないかと考えられる。

(成果目標 2)

・合同学習における学習内容や指導方法についての検討：実施

(達成状況)

○実施

合同学習を行う際には、学習内容や指導方法について、担当教員どうしで事前に協議をする機会を設けている。また、3校合同学習については、授業後研究協議を行い授業改善を図った。また、年3回の全体会議での各部会においても合同学習の学習内容や指導方法等について話し合い工夫・改善を図っている。

場面の工夫については、3校合同学習の外国語・英語の学習では、小中児童生徒混合の班を作り、班員が協働して自分たちのクイズをつくる活動を通して、互いにコミュニケーションしやすい場面を工夫した。

③経済的効率性を重視しながら小規模校の存続を図る学校間ネットワークの構築。

学校施設・教材・教具の共有，人材の相互有効活用，ICTの活用等による教育活動の活性化について調査研究を行う。

・ICTを活用して経済的効率性を図る取組の実施回数：15回（外国語活動等の授業，児童会・生徒会の交流等）

(達成状況)

(成果目標 1)

・人材の相互有効活用により経済的効率性を図る取組の実施回数：8回（中学校の英語，音楽等の教員による出前授業）

(達成状況)

○人材の相互有効活用の実施回数：10回

外国語活動や算数・理科・音楽で中学校教師の専門性を生かした授業が小学生に展開された。外国語活動では、中学校教員・ALTによる出前授業やTV会議システムを活用した乗り入れ授業，中学生との交流学习，小中合同授業を実施した。児童の英語への関心が高まるとともに，教科としての「英語」に対する不安も軽減されている。中学生にとっては，リーダー性を育成するよい機会となっている。算数・理科・音楽に関しても，中学校教員に小学生の実態を理解してもらうことを通して児童理解が進んだ。児童は専門的な指導を受けることで学習に意欲的に取り組むことができた。

(成果目標 2)

・ICTを活用して経済的効率性を図る取組の実施回数：15回（外国語活動等の授業，児童会・生徒会の交流等）

(達成状況)

○ICTを活用した合同学習23回，児童生徒交流14回，職員研修・会議・打合せ等10回 合計使用回数47回

TV会議システムの活用の幅が昨年度に比べ大きく広がった。交流学习では，TV会議システムを活用することで，より大きな学習集団での学びが可能になり，多様な意見や考え方に触れることができ，学びに広がりや深まりが生まれている。机や黒板の配置等，学習を重ねる度に教員間で意見交換を行い，より効果的な学習を展開するための改善点が示され，教員のICT活用能力の向上も見られた。児童生徒交流では，各校が当番制でレクリエーションゲームや学校行事の情報発信，合同行事の感想や意見の交流，学習成果の発表等工夫を凝らした交流が展開された。交流活動の幅が広がり，中学進学に伴う学習や人間関係の不安が解消し，中学校への円滑な接続が図られている。また，自校に居ながら教師間の研修や打合せ等にも活用することで，出張を減らし，公務の効率化が図られたことにより，児童生徒と向き合う時間をより多く確保でき，時間の有効活用にも役立っている。これらの取組は，各校のコーディネーターが中心となり，教科部会（算数・数学，外

国語活動・英語、体育)や教科外部会(NIE, 養護等)の取組が円滑に進むよう連絡調整を行うことで、学校間ネットワークの整備と推進が図られた。

④地域の教育力の一層の活用による小規模校の教育活動の活性化及び開かれた学校づくり。  
 人的・物的・環境的な地域の教育資源を一層活用することにより、学校教育活動のさらなる活性化及び開かれた学校づくりを図る。

(成果目標1)

- ・地域人材を活用した取組み：10回(郷土愛を育むためのふるさと学習等)

(達成状況)

○地域人材を活用した取組み：12回

地域で活躍されている方や地域の歴史等に詳しい方などを講師に招き、指導してもらったり、海、山、川など地域の環境を活用したりした取組を次のように行った。

月	日	種別	概要	対象学年
6	22	人材	両校の1・2年生の生活科まちたんけんで、漁協を訪れた際、地域の方から魚について教わった。	小1・2
7	15	環境	河川環境学習で、樺川の水質検査や水生生物の観察を行った。	樺小3・4
7	15	人材・環境	地域にある漁協の協力で、稚エビの放流体験をして、樺泊の漁業について教わった。	樺泊小全
9	14	人材	運動会の阿波踊りに向け、練習の際に地域の方に鳴り物の協力や踊りの指導をしていただいた。	樺泊小全
9	15	人材	地域の方に協力していただいて、稲刈り体験学習を行った。	小学校全
10	6	人材	地域の天文に詳しい方を講師に招いて、天体観測会を行った。	小希望者 中希望者
10	13	人材・環境	地域の愛好家に指導していただいて、地域の明神山で、アサギマダラマーキング調査を行った。	樺小全
11	16	人材	5年生の児童が社会科学習で樺泊漁協の方に樺泊の漁業について教えていただいた。	樺泊小5
11	26	人材	地域の食生活改善推進協議会の方に、樺っこバザーで販売する食品の調理実習を指導していただいた。	樺小3～6
12	6	人材	「ふるさと学習」として、地域の方から、昔の地域の生活の様子や、昭和南海地震・津波について話を聞いた。	小5・6 中1
12	9	人材	地域のグループ『魚SUN'S』の皆さんに、お刺身やムニエルなどの魚料理を教えていただいた。	中1・2
12	3	人材	生活科の学習で、地域の老人会の方々を講師に招き、昔の遊びについて教えていただいた。	樺小1・2

(成果目標2)

- ・地域への学校だより等情報発信の回数：3回

(達成状況)

○地域への学校だより等情報発信の回数：6回

3校合同で「チェンスクール通信」を作成し、2ヶ月に一度町内全家庭に新聞折込として配布している。また、各学校の学校だよりを毎月各家庭に配布すると同時に、郵便局に掲示したり公民館に置いたりして、地域への情報発信に努めている。

(成果目標3)

- ・地域人材活用データベースの作成：作成

(達成状況)

○地域人材活用データベースの作成：作成

これまで各学校でゲストティーチャーとして招いていた方や、公民館や地域の方からの情報をもとに、地域人材活用データベース「樺っ子応援団」を作成し、各学校や合同学習等の講師として活用している。現在27の個人や団体が登録されており、取組を通して更に

情報収集を行い「椿っ子応援団」を増やして行きたい。また、地域人材だけでなく、地域の自然や環境・文化などの教育資源についても今後データバンク化したいと考えている。

## (2) 成果物等

○リーフレット「『ふるさとがすき』ふるさとに誇りを持ち、笑顔と元気があふれる椿っ子の育成～分散型小中一貫教育（チェーンスクール）を活用して～」

## (3) 今後の取組予定

平成28年度は、平成27年度の取組の成果と課題をもとに、機動性・柔軟性に富むという小規模校のメリットを生かしながら教育内容の工夫改善を行い、地域との連携を図りながら学校教育の活性化に取り組んできた。その結果、成果目標についてはおおむね達成することができた。平成29年度は地域との連携強化、個に応じた指導のいっそうの充実を柱の一つに据え、平成28年度の取組を継続・発展させながら成果目標の数値をより高く設定し、取組を進めていきたい。成果目標達成の判断材料としては引き続き定期テスト等の学力考査、児童生徒の活動の様子、活動後の感想、関係者へのアンケート等の結果を活用する。

なお、平成29年度についてもリーフレットを作成し調査研究成果の普及に努める。